

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

事業課題名	スーフィズム・聖者信仰複合現象の展開をめぐる国際ワークショップの開催
代表者名	東長 靖（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、イスラームの思想・実践の解明を目指す研究国際会議を開催するものである。イスラームにおけるさまざまな潮流のうち、とくにスーフィズムと聖者信仰の問題に焦点を当て、その思想、儀礼、社会的役割などについて検討する。会議開催にあたっては、フランス国立科学研究センター（CNRS）と提携する。本ワークショップでは、京都大学の大学院生 2 名、学振特別研究員（PD）1 名が研究発表を行い、これを CNRS の教員 3 名および京都大学の教員 1 名が指導する（先方からも学生が発表を行うよう要請する）。また、両機関の教員自身も研究発表を行い、モデルを学生に示す。これによって、学生の国際会議でのプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。また、学生には研究発表までにフル・ペーパーの作成を義務付け、英語論文の書き方も指導する。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本事業は、海外（フランス）において国際ワークショップを開催し、大学院生にこの場での英語の口頭発表の機会を与え、これによって国際発信のためのプレゼンテーション能力向上を目指すものである。</p> <p>アジア・アフリカ地域研究（ASAFAS）は、過去 20 年ほどにわたって、フランスの国立科学研究センター（CNRS）との学術交流につとめており、過去に国際会議において合同パネルを何度も組んできた。今回の事業は、長年にわたる国際的学術交流の基礎のうえに企画されたものである。</p> <p>具体的には、2016 年 9 月 5-6 日に、CNRS の Pouchet キャンパスにおいて、“Sufi Doctrines and Rituals” と題する国際ワークショップを開催した。ここでは、日本側から 3 名、フランス側から 3 名の若手研究者が発表を行ったが、この事業を利用して、本研究科 PD の澤井真（SAWAI Makoto “Ibn 'Arabi on the Perfect Man as the Spiritual Authority”）、博士課程学生の山本直輝（YAMAMOYO Naoki “Ibrāhīm al-Kūrānī's Explanation of <i>Ma'ī</i> to Indonesian Disciples”）が英語による口頭発表を行った。また、引率教員の東長靖（ASAFAS 教授）・二ツ山達朗（同客員准教授）は、本ワークショップをフランス側カウンターパートとともに企画するとともに、フランス側若手研究者の研究発表に対してそれぞれディスカッサントを務めた。</p> <p>澤井・山本の両名はいずれも、事前にフル・ペーパーの執筆を行い、これらは当日、会場において印刷物の形で配布された。</p>